

医学系研究に関する情報公開および研究協力をお願い

聖隷浜松病院では、当院の臨床研究審査委員会の承認を得て、下記の医学系研究を実施しております。

研究の実施にあたり、対象となる方の既に存在する試料や情報、記録、あるいは、今後の情報、記録などを使用させていただきますが、対象となる方に新たな負担や制限が加わることは一切ありません。

ご自身の試料や情報、記録を研究に使用してほしくない場合や研究に関するお問い合わせなどがある場合は、以下の「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。研究への参加を希望されない場合、研究対象から除外させていただきます。研究への参加は自由意思であり、研究に参加されない場合でも、不利益を受けることは一切ありませんのでご安心下さい。

研究課題名	ホルモン補充周期融解胚移植において、黄体ホルモンの2剤併用は、単剤療法に比べて、妊娠成績を改善するか？
研究責任者	聖隷浜松病院 産婦人科 医長 伊賀健太郎
研究実施体制	聖隷浜松病院 産婦人科
研究期間	臨床研究審査委員会承認日 ～ 2026年3月31日
対象者	当院でホルモン補充周期凍結胚盤胞移植をお受けになったすべての女性
研究の意義・目的	<p>ホルモン補充周期融解胚移植においては、内因性の黄体ホルモンが抑制されていることが多いため、応対製剤を使用することが原則となる。理想的な黄体補充のプロトコルは明らかとなっていない。また、その投与経路についても、理想的なプロトコルは2025年現在で不明のままである。</p> <p>聖隷浜松病院はホルモン補充周期融解胚移植を実施している。黄体ホルモン製剤の供給が不安定となったことに伴って、妊娠アウトカムの改善を企図して、時期を区切って単剤療法を2剤併用療法に変更した。</p> <p>このプロトコル変更に伴って、妊娠成績が変化したかどうか、改善したかどうかを後方視的に検討する。</p>
研究の方法	すでに存在する診療録データを匿名化し、プロトコルと妊娠成績の関連を調査します。
個人情報の取扱い	本研究で利用する資料や情報、記録からは、直接ご本人を特定できる個人情報は削除した上で、研究成果は学会や雑誌等で発表されます。取り扱う情報は、厳密に管理し、外部に漏洩することはありません。なお、個人情報の利用目的等について詳細をお知りになりたい場合は、「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。
個人情報開示に係る手続き	個人情報開示の手続きについては、「問い合わせ窓口」にご相談下さい。
資料の閲覧について	ご要望があれば、開示可能な範囲で、この研究の計画や方法について資料をご覧いただくことができます。ご希望の方は、「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。
問い合わせ窓口	聖隷浜松病院 産婦人科 (氏名) 伊賀健太郎 TEL: 053-474-2222(代表) リプロダクションセンター外来 9:00～17:00 平日